

いごいのみぎわ  
天路歷程 ジョン・パニヤン

第27話

2022年5月22日～5月28日 各家庭でのディボーション用テキスト

今や信仰者は驚嘆し始めた。そして（今まで独りで歩いていた）基督者の所へ歩みよって（小声で）言った、何とすばらしい道連れができたことでしょうか。この方はきっと非常にりっぱな巡礼者になることでしょうか。

これを聞いて基督者は慎み深く微笑して言った、あなたがそんなに参っているこの男は、あの舌で彼を知らない人を二十人もだますでしょうか。

**信仰者** では、あなたは彼を知っていらっしゃるのですか。

**基督者** 知っているの何のって、ご本人よりも私の方がよく知っているくらいですよ。

**信仰者** いったい何者です。

**基督者** 名は饒舌者、私たちの町に住んでいます。あの男をご存じないと驚きましたね、町の大きいことを思えば、無理もないことですが。

**信仰者** だれの息子ですか。どの辺に住んでいますか。

**基督者** 口上手という者の息子で口八丁通りに住んでいました。彼の知り合いには口八丁通りの饒舌者という名で知られています。口はりっぱにききますが、ただのやくざ者です

**信仰者** そうですかねえ、なかなかりっぱな人らしく見えますが。

**基督者** そうです、彼をよく知らない人たちにはね。よそ目にはずいぶんりっぱですが、うちわではとても醜いですよ。りっぱな人だとおっしゃったので、ある画家の作品で認めたことを思い出しました。彼の絵は遠くから見るとなかなか見事ですが、すぐ近くで見ると実にいやなものでしたよ。

**信仰者** ですが、私はあなたがほんの冗談を言っておられるのだと考えたいですね。さっき笑っておられたですから。

**基督者** とんでもない（そりゃ笑いはしましたが）、こんなことで冗談を言ったり、人に無実の罪をきせたりなどしましょうか。彼のことをもっとさらけだして申しましょう。この男はどんな人とも仲間になり、どんな話題でも出すのです。今あなたと話したようなことは居酒屋の腰かけにかけていても話します。頭に酒を詰めれば詰めるほどこんな事を口にするのです。宗教なんて彼の心にも家にも行ないにもないので。あるものは皆舌の先にあるだけで、彼の宗教とは、舌で音を立てることです。

**信仰者** そんなにまでおっしゃるのですか。それではこの男にだいが騙されてしまいました。

**基督者** 騙されていたのですとも、たしかに。「彼らは言うだけで、実行しない」

【マタ 23:3】ということわざを思い出して下さい。しかし、「神の国は言葉でなく、力である」【Iコリ 4:20】ですね。祈りとか、悔改めとか、信仰とか、新生とか語りますが、彼はただそれらを話すことしか知らないのです。私は彼の家に行ったことがあって、内でも外でも彼を観察しました。それで彼についてお話しするのは本当の事だということを知っているのです。彼の家ときたら、宗教は空っぽで、卵の白味に味がないようなものですね。そこには祈りもなければ、罪に対する悔改めもありません。いや、獣は獣なりに彼なんかよりずっとよく神にお仕えします。彼を知っている者にとっては、彼はまさに宗教の汚れであり、名折れであり、恥であるのです。【ロマ 2:24-25】彼が住んでいるあの界限で宗教の評判があまりよくないのも彼のためですよ。彼を知っている世間の人には彼のことを「そとでは聖人、うちでは悪魔」と呼んでいます。気の毒に家人もそうだと思っています。非常なけちんぼで、召使たちにも、口ぎたなくののしったり、無理を言ったりするので、彼らもどうしてやったらよいか、何と口をきいてよいか分からないのです。彼と少しでも取引のある人たちは、トルコ人と取引する方がましなくらいだと言います。その方がもっと公正な取引ができるからです。この饒舌者は（できれば）彼らをしのぎ、かたり、だまし、出し抜くのです。そればかりか、彼は息子たちを自分の例にならうようにしつけます。そしてもしそのうちだれかにばかげた臆病（鋭敏な良心の最初の現われを彼はそう呼んでいるのです）を見出すと、ばかであほうだと言って、重用したり、人前でほめることは決してしないのです。よこしまな生活で、これまでに多くの人をつまづき倒れさせましたが、神が抑えられなければ、もっと多くの人々を破滅させるだろうと私など考えますね。

**信仰者** なるほどね、私はあなたのおっしゃることを信じないわけにはいきません。彼を知っているとおっしゃるばかりでなく、いかにもクリスチャンらしく人のうわさをなさるからです。このようなことを悪意から言われるとは考えられません。まさにおっしゃるとおりだからと思います。

**基督者** もしあなた同様彼を知らなかったら、私は多分あなたのように彼のことを考えたかもしれませぬ。宗教の敵であるような人々の口からだけこのうわさを聞いていたら、中傷だと思ったでしょう。（中傷はしばしば悪人の口から善人の名と信仰告白とにふりかかる運命ですからね。）これらすべての事、いや、ずっと多くの、私も知っているそれに劣らず悪い事を彼が犯したと証明することもできるのです。そればかりか、善い人たちは彼を恥じて、兄弟とも友人とも呼べません。人中で彼の名をあげただけで、彼を知っている人なら顔をあからめます。

**信仰者** なるほど、言うことと行なうことは別のものだということが分かりました。これからはこの区別に一層気をつけることとしましょう。

【ジョン・パニヤン 天路歷程 正篇 より】

※この本は図書に置かれています。さらに読みたい方はどうぞご利用下さい